

サマリー

ロシアの天然ガス輸出戦略と北東アジアへの影響

戦略・産業ユニット 国際動向・戦略分析グループ 研究員 栗田 抄苗

ロシアは世界最大の天然ガス埋蔵量・生産量を誇り、西シベリア産ガスを欧州市場・CIS 諸国に供給し、ガス産業は石油産業と共にロシアの経済発展を牽引してきた。ロシアは天然ガス輸出収益の最適化を目指す中において欧州市場向け輸出を最重要視しており、今後もその認識は変わらない。同国はトランジットミニマム化によって安定供給を確保し、下流進出を通じて欧州市場におけるマーケットシェアの拡大に努め、中央アジア産ガスの囲い込みによって欧州市場での影響力を維持・拡大していくと考えられる。

他方、東シベリア・極東地域の石油・ガス田の大半は未開発であるが、豊富な資源ポテンシャルを有し、北東アジアにとってこの地域は新規供給ソースとして重要といえる。しかし、ロシアにとって東シベリア・極東の社会・経済発展、国防、輸出市場の多角化の観点から同地域の資源開発の重要性は高まっているものの、当面はロシア国内へのガス供給が優先されると思われる。また、同国は将来も主要市場であり続ける欧州向けに複数の大規模プロジェクト（上流開発、パイプライン建設など）を抱えており、現状では北東アジア市場向け開発・輸出プロジェクトの優先度は相対的に低いといえる。

お問い合わせ先: report@tky.ieej.or.jp